

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
 戦略的原子力共同研究プログラム
 事後評価総合所見

評価の概略					
研究開発課題名:レーザーを用いた海産物中 90Sr の迅速分析法技術開発 研究代表者(研究機関名):長谷川 秀一(東京大学) 再委託先研究責任者(研究機関名):若井田 育夫(日本原子力研究開発機構) 研究期間及び研究経費:平成25年度～平成27年度(3年計画) 103百万円					
項目	要 約				
1. 研究の概要	90Srの高感度かつ迅速な分析技術の開発に資するため、多くの核種で実績を有するレーザー共鳴イオン化質量分析法を用いた90Srに対する迅速測定の可能性の検討、同位体選択性および感度を向上させるための単一同位体イオン可視化が可能な技術であるイオントラップ・レーザー冷却法の適用、及び前処理をはじめとする試料取扱い技術についての簡便化・効率化を検討し、これらを融合させた装置開発およびその原理実証をするもので、海産物等、鮮度が要求される食品の物流過程等での活用が大いに期待される。				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">A</td> <td> 迅速な90Sr分析技術として、レーザー冷却・イオントラップと共鳴イオン化を用いるチャレンジングな課題に対し、プロトタイプシステムを構築し、基本性能を実証した。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない </td> </tr> </table>	A	迅速な90Sr分析技術として、レーザー冷却・イオントラップと共鳴イオン化を用いるチャレンジングな課題に対し、プロトタイプシステムを構築し、基本性能を実証した。		S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない
A	迅速な90Sr分析技術として、レーザー冷却・イオントラップと共鳴イオン化を用いるチャレンジングな課題に対し、プロトタイプシステムを構築し、基本性能を実証した。				
	S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない				